

2011. 10. 28 志岐記

長瀬事務局長、手嶋総務課長との打ち合わせ「審査員選定について」

日時 : 2011 年 10 月 28 日

出席者

検審側 : 長瀬光信事務局長、手嶋健総務課長

市民 : 志岐武彦、石川克子

クジ引きには誰が立ち会ったのか、長瀬氏、手嶋氏に聞いた。

彼らとのやり取りはこうだ。

志岐 「第五検審の場合、クジ引きは誰が立ち会うのか？」

長瀬 「第五検審の 2 人と第一検審の事務局長と事務課長が立ち会うことになっている」

志岐 「小沢検審の審査員のくじ引きに、長瀬さんは立ち会ったのか？」

長瀬 「私は昨年 8 月に異動してきたので立ち会っていない」

志岐 「手嶋さんは立ち会ったのですか？」

手嶋 「はい」

志岐 「立ち会ったのですよね」

手嶋 「一般的に立ち会ったということ。事務に係わったということ」

長瀬 「中身まではいえない」

志岐 「貴方は立ち会ったと言いましたよね。」

(暫く沈黙)

長瀬 (手嶋氏に向かって)「二人を信用して」と手嶋氏に発言を促す。

手嶋 「第一検審でクジをやっている…」とポツリ。

(驚くべき返事だ)

私達は第五検審がクジ引きをやっているものとばかり思い込んでいた。

第一検審の事務課がクジ引きをやる主管部署なのだ。

その第一検審の責任者がクジに立ち会ったかどうかをはっきり言えないというのだから怪しい。

やっぱり、クジ引きは幻か？

今回の 04・05 年小沢不起訴案件と 07 年小沢不起訴案件とがほぼ同時期に申立された。いずれも、第一検審が審査員を選定したことになる。一方は 2 回とも平均年齢 34.55 歳、もう一方は 50 歳の審査員を選定した。

同じスタッフが、ほぼ同じ時期に、同じソフトを使って、どうしてこうも違うのか。

ますます、選定録の署名をしている判事、検事がクジ引きに立会ったのが本当かどうか確認したくなかった。

打ち合わせの中で知ったその他の情報

1. 2009年3月以前は、東京検察審査会は、第一と第二の二つの検審しかなかった。
2009年4月から、第三、第四、第五、第六ができた。
2. 第五検審は、事務局長の傳田と、係長の金子の2人しかいない。
3. 傳田局長はすでに異動になっていた。移動先は言えないとのこと。
4. 選管100人の名簿はどのように作られるか。
東京にある32のそれぞれの選管に、有権者数の割合で決められた数の候補者を選出してもらい、候補者総数100人を集めるとのことだ。
5. 「小沢案件が、第五検審に当たった理由は？」に対し、
「受け順に第一、第二、第三と割り振っていくことになっている。第五になったのはたまたまその順番が廻ってきた」という説明だ。
(本当にそうか確認する必要がある)